

3. 植物調査結果の概要

3. 植物調査結果の概要

(1) 分布状況から見た河川環境の特徴

今回とりまとめを行った 32 水系 34 河川で確認された植物は、187 科 2,551 種でした。確認種数が多かった河川は、中部地方の天竜川で 1,137 種、次いで東北地方の阿武隈川で 829 種、関東地方の利根川で 820 種等でした。

(2) 特定種一覧 (資料 II.3.1)

今回とりまとめを行った 34 河川で確認された特定種は、レッドリスト絶滅危惧 II 類に指定されているノダイオウやタコノアシ、準絶滅危惧種のミゾコウジュやカワヂシャ、ミクリ等 287 種でした。

(注) 特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- ・ 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- ・ 「自然公園法」の指定植物
- ・ 環境省(庁)編「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種(2000)

(3) 外来種一覧 (資料 II.3.2)

今回とりまとめを行った 34 河川で確認された外来種は、303 種でした。このうちの約 4 分の 1 にあたる 82 種は、半数以上の河川で確認されていました。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I.6 (49~50 ページ) および 51 ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。

(4) 砂礫河原に生育する植物群落(カワラヨモギ群落、カワラハハコ群落、カワラニガナ群落)の分布状況 (資料 II.3.3 (1)、(2))

確認状況の概要は、10 ページに、これら選定項目の分布状況(構成比・面積)の図は 108~109 ページに掲載されています。

(5) ハリエンジュ(ニセアカシア)、アレチウリ、ブタクサ、オオブタクサ、シナダレスズメガヤの確認状況の経年比較 (資料 II.3.4)

確認状況の概要は、26 ページに、これら選定項目の河川ごとの経年確認状況についての比較表は 110 ページに掲載されています。